

右明日行幸何時乎、馬俄相違、只有蹇驢、奥州之所送、雖聞其名、未見其實、頗以沛艾云々、但果下之類、歟、花厩之中、定有細馬、歟、被申事由、早朝可給、爲習控御也、謹言、

〔璫囊抄七〕明衡往來ニ、馬ヲ指テ果下ノ類ト云ハ何事ゾ、果下トハ小馬ノ異名也、其長ク三尺也、仍テ是ニ乗テハ果子低枝ノ下ヲモ過ツベシ、故ニ果下ト云ト云云、爰ヲ以テ宋人荆公ガ句云、呼

童羈我果下驢ト作レリ、

〔日本紀略四〕上、康保二年六月七日丙午、於弘徽殿有競馳菓下馬之戲、

瑞馬

〔延喜式二十一〕祥瑞

神馬龍馬、長頸、脰上有翼、踏水不沒、騰黃、其色黃、狀如狐、背上有兩角、飛兔、日行三萬里、鬚髮赤、喙黑、身日行三萬里、澤馬、白馬、赤騮、白馬、赤鬣、青馬、白鬣、駒、駉、狀如馬、出於北海、駛自能言

語、○右大瑞

馬渡來

〔古事記中〕應神亦百濟國。主照古王、以壯馬壹疋、牝馬壹疋、付阿知吉師、以貢上、

〔政事要略五十五〕馬牛事婦女乘馬如男、夫事牧監、秩限在此中、但交替雜事、通可見、八月七日、國飼馬事、在公務給復部、

古事記云、百濟國主肖古王、以牡馬一疋、牝馬一疋、附阿知吉師、以貢上、此阿知吉師者、百濟王本系云、

牡始此馬種蕃息於天下也、日本紀云、保食神已知、書紀有矣、字、唯書紀有、有字、其神之頂化爲牛馬、日

本決釋記曰、今案、保食神已死、神之頂化爲牛馬、爰難者云、倭國无馬、牛事見書傳、故應神天皇之世、百

濟進牛馬、自此而後、倭國有牛馬、若本无牛馬者、古先君臣寧杖策徒步乎、雄計天皇二年十月、天下安

平、民無徭役、歲比登稔、牛馬被野、私案、神代有馬、又見、交替雜田部、

〔古事記傳三十三〕さて馬は、御國に神代よりある物にて、書紀欽明卷に、百濟の使人の國に還る時、

良馬七十疋を、彼國に賜ひし事さへ見えたるに、今返て彼より貢りしは、殊なる良馬にてぞあり

けむ、  
〔秋齋問語三〕馬は其むかし唐土より渡りし時は、名をば耳のけだ物といふて、殊に希なりければ、